

IV-291

地方都市における地域分断解消施設の整備効果に関する研究

福井県土木部 正会員 ○加藤 哲男
 福井大学工学部 正会員 本多 義明
 福井大学工学部 正会員 川上 洋司

1. 地域分断の解釈と定義

地方都市の市街化区域は、河川や鉄道等によって分断されていることが多い。このため、街路のネットワーク構成において分断を解消するための橋梁や立体交差施設の整備が重要な課題となっている。

福井市は市街化区域内の面整備率が74%、都市計画道路の整備率が76%に達し、地方都市の中では全国屈指の都市基盤整備水準を誇っている。これらの整備にあたっては、面的整備手法では対応しにくい橋梁や立体交差の整備を推進することにより、面的整備区域相互の結合が強化され、街路のネットワーク構成が向上するのみならず、面的整備区域内における都市開発を活性化させるという効果を生んでいる。このことは面整備の事業効果が整備区域外の施設整備と密接に関連していることを示しており、その関係を明らかにすることは、面整備の事業効果を検討する観点からも重要である。

また、福井市では現在連続立体交差事業が計画中であるが、一定区間にわたり地域分断を一気に解消しようとする当該事業の整備効果を予測するうえからも本研究の意義は大きい。

本研究では、福井市の地域分断構造と都市基盤整備の先進性に着目し、地域分断を解消するための施設整備効果を明らかにすることを目的としている。ここで「地域の分断」とは、河川や鉄道等によって物理的に地域間の交通が分断されている場合を言い、幹線道路により地域が分断される場合は含まない。

2. 分断解消施設の有無比較

本研究では、分断解消施設が存在する地区と存在しない地区を2つずつモデル地区として選定し、昭和56年と61年の都市計画基礎調査データを基に、地域分断解消施設の整備効果の測定を行った。

図-1はそれらのモデル地区の位置と分断関係を示したものである。



図-1 福井市の都市基盤整備状況

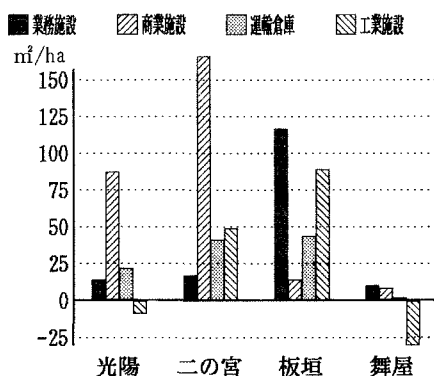
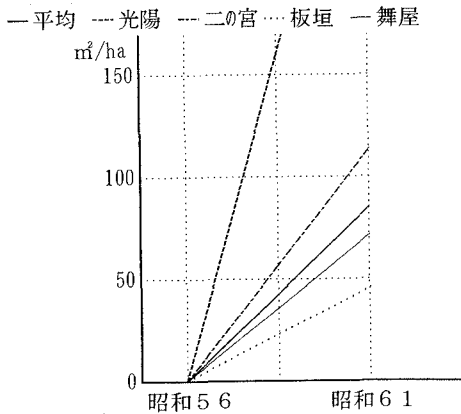


図-2 地区別用途別建築物延べ床面積増減

図-2は各地区における建築床面積の5年間の変化を表したものであるが、分断解消施設が整備された地区において、商業床面積の増加が著しい。



図－3 5年間の1ha当り商業系建築量
(延床面積)

図－3は各地区の建築動態を比較したものであるが、45度の方向を市街化区域全体として表した場合、分断解消施設のある地区がそれより上方にあり、無い地区が下方にあることがわかる。

軌道交通網が発達しない地方都市において、市民生活を支える上で重要な役割を担う街路交通ネットワークの整備効果は、商業施設の立地といった形で捉えることができる。

3. 整備効果連鎖のフロー

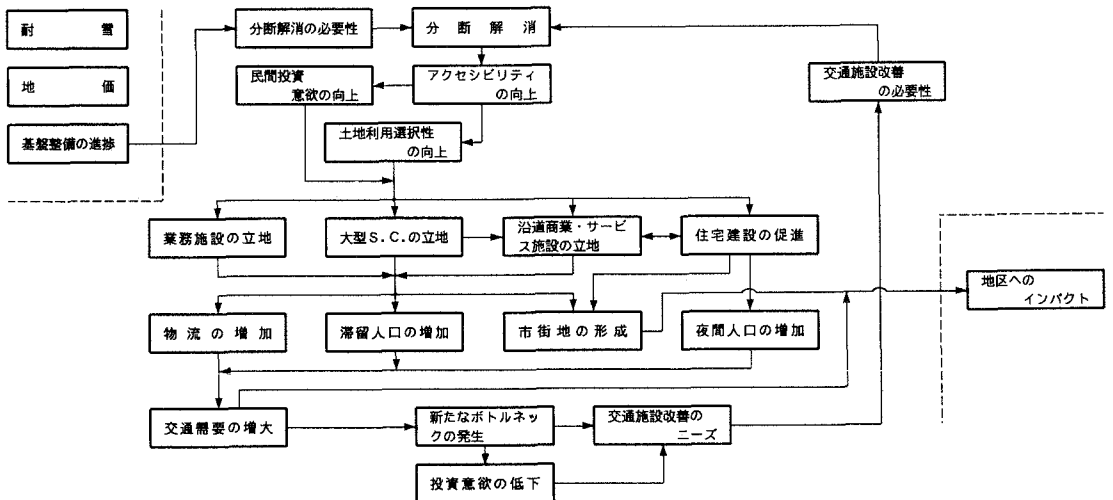
分断解消が都市活動にどのような影響を与えてい

くのかを把握するために連鎖図（図－4）を作成した。この連鎖図は、連鎖の因果関係が既往の研究成果や調査データによって説明することができることを前提としている。

連鎖図は分断解消をスタートとして検討されたが福井市の特性である高水準の都市基盤整備の進捗、雪に強い都市づくり等は連鎖の中を含めず外部条件とした。また、物理的な分断が解消された後に、都市開発に伴う交通需要の増加が生じ、既存の交通施設では十分なサービスが提供できなくなることも、分断を発生させたと解釈することとした。こうして分断解消の連鎖は一度の施設整備で完結することなく、都市の発展状況に応じて幾度となく繰り返されることになる。

4. 今後の展開

街路網の整備は、これまで緊急性や重要性を勘案して優先順位が定められてきたが、ユーザーである住民の立場に立った整備のあり方を考える意味からも、整備効果の因果関係を数量的に明らかにすることが重要になってきている。本研究はその因果関係を明らかにすることを最終的な到達点としているがこれらの分析の過程において、公共施設の整備水準を表す新たな評価尺度についても検討を行う必要がある。



図－4 分断解消施設の整備効果連鎖図